

令和6年度中国・南昌市への青少年訪問団派遣事業 事後報告書

◆名前： 三光院 優太

江西省及び南昌市に滞在中の様子や本事業で得たこと、感想等をご記入ください。
(1,000字程度)

私が今回の派遣事業に参加した最大の理由は、自分自身がいま最も興味関心が高い観光業についての情報と経験を得られると考えたからです。もちろん不安と緊張でいっぱいでしたが、このような機会は二度とないと思い、参加を決断しました。そして結果的にこの決断は、何よりも大きな財産として残る事となりました。数えきれないほどの思い出が残っているのですが、その中でも特に印象深い出来事は、2日目に南昌市中日友好会館へご招待頂いた事と、4,5日目に皆で景德鎮の広場や茶畑を歩き、時間を共にしたことです。

中日友好会館では入口から入って正面に大きなスクリーンがあるのですが、そこでは南昌市と友好関係を築いている他国の市長の皆様からのビデオメッセージを流していただき、距離は離れていても世界は密接につながっていることを実感しました。そのスクリーンの前では記念撮影も行ったのですが(写真①)、「熱烈歓迎日本高松市青年代表団一行」と表示されたスクリーンの前に立ち、高松市の代表として撮影される際、両市のプロジェクトの一員になれたことに少しばかり誇らしくなったことを思い出します。また建物内には両市のこれまでの歩みが詳しく紹介されており、明るく開放的な空間が広がる建物内と共に、大変印象に残っています。次の予定のために移動しなくてはならないのが本当に惜しいと思える、そんなひとときでした。

4,5日目の景德鎮では、グループで自由に行動できる時間があり、そこで訪れた多くの場所では陶器が販売されていました。景德鎮は古くから陶器が有名であり、歴史を感じることでできる茶碗から親しみやすいキャラクターの食器など、幅広い商品が販売されていました。(写真②)

茶畑ではこれまで飲まず嫌いしていたマテ茶などをサービスして頂き、新たな味覚に気づかされました。景德鎮では人との交流だけでなく、食でも良い思い出を作ることができたため、深く心に残っています。

このように今回の事業では、数々の経験を得ることができました。特に現地の学生の皆さんやお店の店員さん、バスの運転手さんなど皆さんが優しく丁寧に接して頂いた事は本当に嬉しく、観光業界に携わることを志望する人間として絶対に忘れられない出来事です。また、この事業をきっかけにより一層中国に興味を湧いたため、今後ともこのような事業には積極的に参加したいと思います。最後になりますが、この事業を企画して下さった両市の関係者の皆様に心から感謝致します。そして、この事業がこれからも続くことを願っています。



(写真①)



(写真②)